



## ■ 事業概要

福山市内（福山駅周辺ウォーカブルエリア）を対象に、聞き書き・対話形式の取材を通じて地域情報誌を編集・発行。若者や地域住民が取材・編集に参加し、冊子・Web・トークイベントで地域や人の魅力を発信。発行後はその情報をもとに、まちあるきやトークイベントを開催。関係人口の増加や街のにぎわい創出を目指します。

## ■ 解決したい課題

- 地域活動の担い手不足・固定化
- 世代間の分断と交流機会の欠如
- 地域の人材・活動・歴史の可視化不足
- ウォーカブルエリアの回遊性・にぎわい創出



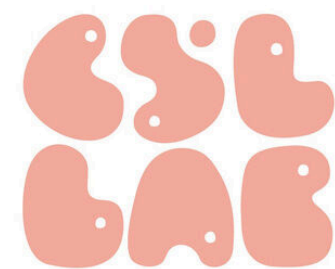
## ■ スケジュール

2026年4～6月：企画・取材対象選定

6～8月：取材・聞き書き / 9～10月：編集・デザイン / 11月：Web版発行

その後随時、追加取材とイベントを重ね、Web版に情報追加したものを冊子として発行。

2027年3月（頒布）



みんなの  
暮らし  
研究所

事業期間：2026年4月～2027年2月 | 発行部数：5,000部 | 取材対象：15～20名

事業提案者：労働者協同組合みんなの暮らし研究所

事業計画書

<p>1 事業の名称</p>	<p>「ふくやま暮らし」編集プロジェクト —聞き書きと対話で地域の人と関係をつくる実践事業—</p>
<p>2 事業の内容</p>	<p>本事業は、福山市内（主に福山駅周辺のウォークアブル区域）における地域資源を対象に、聞き書きおよび対話形式による取材を行い、地域情報誌として編集・発行するものである。</p> <p>取材はトークイベント形式で実施し、地域住民や若者が直接語りに触れる機会を創出する。対象としては、福山駅周辺で活動する商店、個人事業主、企業、文化施設関係者等を想定している。</p> <p>本事業で扱う主な内容は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源：商店、事業者、公共空間、文化施設等</li> <li>・地域課題：担い手不足、世代間の分断、地域活動の担い手の固定化、情報の分散</li> <li>・まちの歴史：商店街の変遷、産業の成り立ち、地域文化や慣習</li> <li>・暮らし：日々の仕事や生活、地域との関わり方、若者や移住者の視点</li> </ul> <p>これらを聞き書き及び対話により記録し、WEB および冊子で共有可能な形に編集することで、地域の情報や人の営みを「可視化」する。また、取材・編集・配布の過程において、世代や立場を越えた関係性が生まれることを「ネットワーク形成」と位置づける。</p> <p>さらに、制作過程には若者や地域住民が参加し、取材や編集に関わることで、地域参加型のメディア制作とする。</p> <p>発行後は、冊子を活用したトークイベントや対話の場を試行的に実施する。加えて、若者が記事をもとに掲載人物や場所を再訪問するフィールドワーク等を試行的に行</p>

	<p>い、地域との関わりを深める機会を創出する。</p> <p>また、これらのコンテンツを活用し、将来的には福山市外の人々を対象としたまち歩き等への展開も視野に入れ、地域の魅力を体験的に伝えることで関係人口の創出につなげる。</p> <p>なお、福山駅周辺のウォークブル区域を主な対象とする理由は、徒歩での回遊が可能であり、取材・再訪問・交流といった一連の活動を日常的に展開しやすいためである。</p> <p>また、現在進められている駅前広場の整備により創出される公共空間についても、地域の人や活動の可視化と組み合わせることで、単なる空間整備にとどまらず、人の利用や滞在を促すことが期待される。</p> <p>本事業により、冊子やトークイベント、フィールドワーク等を通じて地域の人や場所への関心を高め、実際の訪問や滞在へとつなげることで、ウォークブルエリア内の回遊性向上およびにぎわい創出に寄与する。</p> <p>本事業は、整備される公共空間を「使われる場」として機能させるためのソフト事業として位置づける。</p>
<p>3 事業実施による公益的な効果</p>	<p>本事業により、地域の人材・活動・歴史・暮らしが可視化され、これまで個別に存在していた情報が共有されることで、地域内の理解促進につながる。</p> <p>また、冊子の配布にとどまらず、読み合わせや対話の場を実施することで、「読む→話す→関わる」という段階的な関与を促す。さらに、若者が記事をもとに地域の人や場所を再訪問するフィールドワークを行うことで、地域理解が具体的な行動へとつながり、地域参加の促進が期待される。</p> <p>加えて、取材対象者と読者が対話する機会を設けることで、世代間交流の創出を図る。</p> <p>これらの活動を通じて形成される関係性は、地域内のネ</p>

	<p>ネットワークの広がりにつながり、将来的には観光資源としての活用や関係人口の創出にも寄与する。</p>
<p>4 対象者、人数、規模等</p>	<p>取材対象者：福山市内の住民 15～20 名程度  制作参加者：地域住民・若者 5 名程度  発行部数：5000 部程度×年 1 回  配布先：サテライト、公民館、児童館、学校、地域団体等</p> <p>なお、配布にとどまらず、各配布先において対話やフィールドワーク等の活動と組み合わせることで、地域理解や地域参加につながる導線を設計する。</p> <p>○地域理解や地域参加に繋がる導線の具体案</p> <p>【対話×読書会】2026 年度中に、間論（malon）や公民館等において、冊子掲載記事を活用した読書会や対話の場を試行的に実施する。参加対象は地域住民、学生、冊子読者等を想定し、地域の歴史や暮らしへの理解を深めるとともに、次年度以降の継続的な展開につなげる。</p> <p>【フィールドワーク】2026 年度中に、福山駅周辺ウォーカブルエリアにおいて、冊子で紹介した商店、公共空間、文化施設等を訪ねるフィールドワークを試行的に実施する。取材対象者や地域住民との交流を通じて、地域活動への参加や情報発信など主体的な関わりにつなげる。</p> <p>【聞き書き・編集ワークショップ】大学生等若者を主な対象として、聞き書きや編集の手法を学ぶ機会を設け、地域の魅力や課題を自ら記録・発信できる担い手の育成につなげる。</p> <p>本事業を本通り商店街で ZINE や製本のワークショップなどを行う「いとま堂」や、福山市立大学のサークル等にも呼びかけ、多様な人たちに段階的な参加の機会を創出し、地域への関心を継続的な地域参加へとつなげる。また、活動成果を WEB や冊子で公開することで、事業参加者にとどまらない波及効果を生み出し、地域内外の新たな関係人口の創出を図る。</p>

<p>5 スケジュールと内容</p>	<p>2026年4月～6月：企画立案、編集体制の構築、取材対象者の選定を行う。あわせて、三之丸町の間論（malon）等を拠点として編集会議を実施し、地域住民や若者等への参加の呼びかけを行う。</p> <p>2026年6月～8月：福山駅周辺のウォークアブルエリアを中心に、取材（トークイベント）および聞き書きを実施する。必要に応じて、若者等が取材や編集に関わる機会を設ける。</p> <p>2026年9月～10月：取材内容の整理、編集、デザインを行う。編集会議を継続するとともに、制作過程への参加の機会づくりを行う。</p> <p>2026年11月：WEB版を公開し、活動成果を広く発信する。あわせて、冊子掲載記事を活用した対話や読書会等を試行的に実施し、地域理解を深める機会を創出する。</p> <p>2026年11月～2027年1月：追加取材および聞き書きを実施するとともに、福山駅周辺の商店街、公共空間、文化施設等を訪ねるフィールドワークや対話の場を試行的に実施し、地域との関わりを深める。</p> <p>2027年1月～2月：追加編集およびデザインを行い、WEB版へ情報を追加するとともに、活動の振り返りや成果共有を通じて、新たな参加者や取材対象者の発掘を行う。</p> <p>2027年3月：WEB版に蓄積した内容をもとに冊子を印刷・発行し、サテライト、公民館、児童館、学校、地域団体等へ配布する。あわせて成果共有を行い、次年度以降の事業展開につなげる。</p>
<p>6 翌年度以降の事業計画</p>	<p>本事業は単年度で完結するものではなく、継続的な発行を通じて地域の記録を蓄積し、「まちのアーカイブ」として形成していくことを目指す。</p>

	<p>また、継続的に関わることで、取材・編集に参加する若者や地域住民の経験が蓄積され、地域内の担い手育成にもつながる。</p>
--	---